

# 幌延深地層研究計画 平成 28 年度調査研究計画 説明会 質疑応答の概要

- 質問) ① ホームページの[所長挨拶](#)で「幌延を研究のメッカにしていく」とされている。メッカということは、永久的にそこで大事にしていく意思と受け取れるが。
- ② 研究は順調に進んでいるということであるが、そうすると当初計画（[「深地層研究所（仮称）計画」](#)）の 20 年で終わると受け止める。道民に約束したこの期間を所長はどう考えているか。

- 回答) ① 「メッカ」という用語を使っているのは、大学や国内外の研究機関との連携した研究を拡大し、国内に限らず世界に向けて、幌延センターの研究成果や場所の存在を発信していきたいという意図。
- ② 平成 27 年度から「必須の課題」という三つの研究課題を進めており、その成果等を踏まえ、平成 31 年度末までにその後の工程を示させて頂く。当初示した 20 年程度という考え方は変わっていない。その方針は当然引き継いで行く。

- 質問) ① 海底地下の処分場の計画を新聞等で拝見する。それに関し、幌延センターで検討した例は有るのか。
- ② 当初計画では深度 500m まで掘るという計画だったが、深度 350m で止まって 2 年も経過している。三者協定書（[「幌延町における深地層の研究に関する協定書」](#)）第 8 条に「十分に説明する」とあるが、掘削工事の進捗は。

- 回答) ① 沿岸域の海底下は従来から処分場の対象範囲である。これまでも、機構を含めた国内の研究機関で研究対象とされてきている。幌延町においても沿岸域の研究を進める可能性はある。
- ② 深度 500m の掘削の計画は変えていない。「必須の課題」の今の 350m 調査坑道での研究成果等を踏まえ、500m の坑道展開や研究内容を検討するため、もう少し成果が蓄積されるまでお待ちいただきたい。

- 質問) 定置試験と取り出し回収の技術は、当初計画にあったか。2000 年に回収技術の研究はするののかとの質問に、機構は予定は無いと言っている。原環センター（原子力環境整備促進・資金管理センター）との共同研究でできるのか。

- 回答) 定置・回収試験については、当初計画の施工と品質確認の中で実施するもの。今回の回収技術は、定置がうまくいかなかったなどの場合に、置き直す為に人工バリアを一旦回収するというような観点で試験をするもの。

- 意見) 研究期間 20 年に関し私も三者協定を見直したが、文言の中に 20 年というのは謳われて無い。当初計画の 20 年は、時代と共にというか、色んな事象が起きる中で、町民としては延びることも構わないと思う。幌延町がなぜ誘致したかという、やっぱり過疎化が一番の問題。研究に対して反対意見はあるのかもしれないが、私としては時間に関係なく続けて頂ければと思う。

質問) 原環センターとの共同研究の実規模整備事業については、エネ庁（資源エネルギー庁）に行って話を聞いてきた。当初しないと言っていた可逆性の実験は、定置の位置の曲がりを直すとかということではなく、可逆性実験の一つだと言えるのではないか。

回答) 原環センターがエネ庁から受託している案件は、可逆性・回収可能性開発となっていると思うが、機構と原環センターとの共同研究は、あくまでも、操業段階における人工バリアの定置がうまくいかなかったなどの場合に、回収するという技術についてのもの。得られた成果は、可逆・回収可能性の整備などに活用されるかもしれない。ただ、原環センターがエネ庁から受託している契約は、幌延での地下での実証が全てだということではない。

質問) 最近ここに来たが、ここは日本で数少ないいいところだと思う。そこに、原発のゴミを持ってくるべきではないと考える。これについてどう思うか。原発事故で皆知っているとおり、そういう危険なものの産物があるというのは将来の子供などに影響すると考える。そういう人達に対して、どう説明するのか。

回答) 誤解があるかと思う。我々は、放射性物質を持ち込まずに、処分技術の研究を行っている。処分場は、国が科学的有望地を今年中に示すという動きがあり今後決まってくる。我々がいることで幌延が高レベル放射性廃棄物の処分場になるというようなものではない。

我々の世代で出した放射性廃棄物を安全に処分するということを後世に負担として残さずに、どうやるのという研究を進めている。

質問) ① 後世に負担を掛けないなんてことできるのか。もう既に日本中にある迷惑なゴミは後世に負担を残した。それを残さないためにどうするかなんて欺瞞的な回答をするから信用できない。原発を止めて、ゴミを増やさないことが、後世に負担を残さない最低限のやり方ではないか。

② 実規模設備整備事業で展示している定置する機械は、展示物か。何億も金かけて作った。実際に試験で活用するのではなかったのか。報告書では、手作業でベントナイトを設置したという。金をただ余計にかけているだけ。

回答) ① 地上で放射性廃棄物を保管する場合、数万年間地上で保管しようと思うと後世に負担がかなりかかる。それに対して地層処分は、基本は埋設後は人は管理しないという発想。埋設し終わるまでの間はもちろん管理するが、全て地上まで埋め戻せば、基本は人類の手を離れて管理はしないので、後世への負担はかなり軽減できるというのが地層処分の考え方。

② 地層処分実規模試験施設にある緩衝材の装置は、展示物であり、且つ、試験装置。一例をあげると、おもしろ科学館で何度か定置試験を公開している。人工バリア性能確認試験の時の緩衝材の積み方を手作業と言われているようであれば、あれはあくまでも試験のための場の設定。操業技術と併せて実証しているということではない。

質問) 後世にツケを残さないために埋めてしまうのは、非常に危険な問題だと私は思う。私たちが出したツケを埋めて見えないところに置いてしまえば、あたかも解決したかのような発想自体が問題。300mとか350mというのは、後世の人がそれを掘り返すことも有り得る。

回答) 地層処分の埋設後、長い将来に亘っての安全を評価する為に我々は研究しており、NUMO（原子力発電環境整備機構）も研究している。安全に処分できるかは、火山・地震も含めて場所の評価をし、埋めた後どうなるかを長期的に評価する。規制側も評価を確認し、安全だと認めたらその場所で段階的に事業は進んでいく。埋めたらどうなるか先は全く知らないよ、とりあえず埋めようという発想ではもちろんない。将来掘り返すのではということについては、その場所にモニュメントなどを長期的に残す等色々な方法が検討されている。

質問) ここに核のゴミを受け入れないつもりだったらそもそも研究なんてする必要はないのではないか。後世に負担をかけないと言っているが、原発で事故が起こった時点でもう迷惑かかっている。そんな人類代表、我々の世代代表みたいな、きれいな言い方されても関係ない。そちらのエゴであって、僕らの子供世代は困る。そういう話を子供の前で、淡々とさらっと言っただけの大人がすごく怖いと思う。

回答) 例えば、地下の現象を評価する方法やデータベースを作るのが、この研究の使命。ここで作られた成果を実際の処分をする会社が処分場の評価に適用するための、ツールの作成のために研究している。

質問) 岐阜県では、知事も市長も研究をやめたいということと言っても、機構はやめるとは言わない。この辺が非常に幌延にダブって見える。自分達の職の安全を考えているとしか映らない。

回答) 岐阜県知事も瑞浪市長もすぐに研究を止めてくれと言ってはいない。我々の瑞浪超深地層研究所としては、研究の進捗具合等を踏まえて、幌延センターと同じ平成31年度にはその先の工程を明らかにしますとしている。

意見) 原発のゴミは、私たち皆が出してきてしまったもの。皆が出した責任はあると思う。皆で、どう処分していくか考えて行くべき。一主婦としては、研究してきたことを20年だということに閉じてしまうのではなく、後世に残すリスクを最小限にするためにきっちり研究して、地下処分が決まれば、出来る限り確実に処分をしていただきたい。

以上